

社会福祉法人夏秀会

虹の丘グループホーム 2020年度事業計画

法人設立以来、職員確保に困難な状況を克服し2019年9月より一部グループホーム事業運営を開始したところではありますが、新たな年度を迎えるにあたり、2020年の事業計画を下記のとおり設定いたします。

当法人は社会福祉法人ではあるものの非常に小規模な事業所として認知症ケアを専門に取り組んでいます。今年度は更に認知症の専門性の向上、地域活動の活発化、そして地域の認知症ケア相談窓口として活動の場を広げるだけでなく、実質的な役割を全うしていく予定です。地域社会における認知症の人ご本人の精神的負担軽減だけでなく、認知症の人抱える家族の精神的負荷を軽減するため、認知症初期集中支援チーム並びに地域包括や認知症の人と家族の会等の組織との連携を密に行い、人と人を結び付け、シームレスな介護を行えるよう、細心の配慮を行いながら地域ケアを目指すものです。以下に事業計画の具体的な項目を記します。

○運営理念・経営理念・組織目標

1. 健全な経営基盤の確立と強化
2. 認知症であっても「人」として生きる支援
3. シームレスな支援体制の一翼を担う
4. 認知症の啓蒙・啓発活動の充実

1) 健全な経営基盤の確立と強化とは。

入居者数が限られている中での運営効率の徹底を実践する。つまりは、稼働率の改善と向上を目指した空き部屋対策をしっかりと実施する。また、入居者の健康維持や事故防止策を徹底することで入院や重度化による転居などにつながる要因を解消すべく職員一同が注意を怠らないこと。事故、病気による医療的治療には認知症を時によっては悪化させることにつながることをしっかりと理解し、できる限り健康で健やかな毎日を送ることができる介護を目指します。

2) 認知症であっても「人」として生きる支援とは

認知症をしっかりと理解することが一番重要な課題であり、そのためにも職員間で認知症に関する施設内・外を問わず研修に参加し学びをひろげていく。また、入居者支援における情報の共有化を推進し、チームとして認知症ケアを実践できる場として本人だけでなく、職員に対する介護負担等軽減を進めていくものです。人としての尊厳を守るために、理念だけでなく、介護スキルを学び、痛みの伴わない介護スキルの研鑽に努めます。

3) シームレスな支援体制の一翼を担うとは

虹の丘グループホームは鈴鹿市南部地域における重要な認知症ケアの拠点の一つとして自らが位置付けることが大切であり、職員自身にそのような地域力としての自らの責務を自負することが重要と考えます。この地域だけでなく、鈴鹿市全体の認知症ケアとして私たち自身が地域資源の一つとして、介護だけでなく、医療、薬剤栄養管理指導や自治会との連携を深め、認知症の人が安心して地域で生活を維持できるようつながりを継続していける支援を目指します。

4) 認知症の啓蒙・啓発活動の充実とは

地域社会における一番の不安要素として、年老いて認知症となることの不安が社会全般の共通認識です。認知症となることは誰にでも起こり得る事であり、逆に地域の理解さえあれば認知症を不安に思うことも軽減されると考えています。私たちは認知症の専門職として、地域社会に広く認知症を知ってもらうこと。正しい認知症の理解を深める事。認知症の人の苦しみだけでなく、生きがいを持てることを広く拡散することで、認知症の理解が深まっていくものと思います。その為に、地域社会の高齢者を対象とした健康教室、認知症予防を目指す活動の推進、同時に、地域社会における認知症サポーター養成講座の開催、認知症カフェの開催と相談窓口の設置を実施いたします。

以上の4点を主軸とした、2020年度の計画によって社会福祉法人夏秀会は小粒ながらも、地域に根差した社会福祉事業を展開して行く所存です。